

「卒業 50 周年記念特別寄付講座に藤沼重起先生をお招きして」

2019 年 10 月 9 日に開催された今年度初回のエバーグリーン講座に東京から藤沼先生をお招きして講演いただいた。獅子の会（昭和 40 年入学、44 年卒業）の卒業 50 周年記念祝賀会に先立ち同日 3 講目に母校教室にて学生、教職員、獅子の会メンバー計 500 人弱の参加のもと行われた。講演は「目指そう・挑戦しよう 将来性のある会計プロフェッションへの道」と題し、質疑も含め 90 分の講演であった。冒頭、大津晶准教授と獅子の会島崎憲明幹事から藤沼先生の略歴について紹介があったが、先生は国内外で活躍されている国際派の公認会計士で数多くの役職を歴任されている。主な仕事としては、2000 年から 2002 年まで国際会計士連盟会長を、2004 年から 2007 年まで日本公認会計士協会会長を、2008 年から 2015 年まで中央大学大学院ビジネススクール特任教授などである。現在は日本公認会計士協会相談役、日本公認不正検査士協会理事長、上場企業の社外取締役などの要職を精力的に勤めておられる。国際会計士連盟（International Federation of Accountants 略称：IFAC）はニューヨークに本部を置き、130ヶ国からなる300万人を超える会計専門家・団体を代表する国際組織で40年以上の歴史を持つ。先生は日本から初めて会長に選出され、グローバルで豊富な会計人脈をベースに数々の改革にチャレンジし、その業績は高く評価されている。

エバーグリーン講座は2017年11月に「開講30周年記念大会・祝賀懇親会」を執り行ったが、今年で33年目を迎える。同講座は商大の実学教育を象徴する名物講座の一つであるが、緑丘会の全面的な協力により幅広い分野で活躍している卒業生を講師に招いて実社会での経験を踏まえたメッセージを後輩諸君に伝えるのを主たる目的としている。これまで350名を超える卒業生が登壇し、受講学生数は6000名を超えている。

〔藤沼先生の講演内容と学生諸君に対する期待とメッセージ〕

① 「会計プロフェッションを取り巻く環境変化への対応」

冒頭に、講演当日に発表された関西電力会長・社長の辞任に関連した不祥事について言及しながら、現在は透明性や公平性を求める社会に変化してきており、企業に対しては強固な組織ガバナンスの構築と説明責任(Accountability)の実行が求められていると説明された。また、説明責任と会計(Accounting)との関係にも触れ、会計プロフェッションの役割を再認識すべきであると強調。

② 「会計マインドの醸成と国際対応に不可欠な会計教育充実の必要性」

会計の役割は、一つに、業務上の成果を把握し経営改善に役立てること。二つに、経営者の説明責任を明確にすることにあるが、我が国では「会計に対する理解」が十分でない。会計は事業を行うに当たって必要な基礎的知識であるが、会計教育の重要性が社会

や一般学生に十分に認識されていないとのこと。(筆者が勤めていた総合商社では、英語と会計は商社人が標準装備すべき基本的リテラシーと言われていたことを思い出した)

③ 「経済のグローバル化により会計・監査関連業務の国際化が進展」

企業経営の成果を数値で把握するためのツールとして会計基準が定められているが、我が国においては4つの基準の使用が認められている。それは、日本基準、国際会計基準(IFRS: International Financial Reporting Standards)、米国基準、修正国際基準であり、このように4種類の基準が併存している国は他にない。先生はIFRS財団のトラスティ(評議員)として、日本のみならず国際的レベルでIFRSの適用促進に努めてこられたが、現在、国連加盟国196ヶ国中IFRS使用国は138ヶ国(全体の70%)に達し、IFRS財団の「ビジョンが現実になった」と評価。国際会計基準の適用国が、2001年の財団設立後19年間でここまで急速に増加したのは経済のグローバル化の進展によるところが大きいとの認識を示された。

④ 「商大から数多くの会計人材が誕生することを期待するとのメッセージ」

小樽商大の卒業生で会計士や税理士、会計学者、教員など会計のプロフェッションとして活躍している人は多いが、企業の経理部や財務部などにおいて責任ある立場で会計の仕事をしている人も少なくない。会計や簿記はまさに実学であり、社会に出て様々な職業に就く場合でも、また、将来起業する場合でもビジネスの成果を計数的に把握するツールという意味で、ビジネスパーソンにとっては必須のものである。商大生には、世界で通用する会計プロフェッションを目指して、人間としてのIntegrity(信頼性)、公益擁護の姿勢、世界に通用する知見と前向きなVisionを持ちその実現を目指して努力する、つまり世界に通用する会計・国際人を目指して欲しいとの強い期待を述べられた。

⑤ 「グローバル会計人材には海外経験や国際交流が不可欠」

外国人との交流に当たって藤沼先生が大事にしている「3F+With Funの原則」を説明された。

その1、Friendlyに接し、友人を増やせ!

その2、Frankに意見を言い、信頼を得る!

その3、Fairな態度と判断力を保持し、尊重し尊敬される!

「Joke」で互いに愉快的気持ちになる”With Fun”を忘れずに!

⑥ 最後に、藤沼先生が公認会計士として指導を受けた方々として、商大の大先輩である公認会計士3氏、伊藤勝夫さん、森田松太郎さん、香西敏夫さんに感謝の言葉を頂いた後、青山学院大学八田進二名誉教授の言葉「経済活動のあるところ会計あり、会計知らずして健全な経済人とは言えない!」とのメッセージには、聴講していた獅子の会メンバー25名は過ぎし50年間を振り返り、まさに至言と腹落ちしたに違いない。

[学生からの質問と感想]

今年度のエバーグリーン講座履修者は登録ベースで477名にのぼるが、これに対して当日の聴講者は423名（非履修者で当日聴講した学生を含む）で出席率は90%弱と高く、同講座に対する学生の関心の高さがうかがえる。講演終了前に学生が各自のスマートフォンから質問や感想を書き込み、それが教室前面のスクリーンに投影された。その中から大津先生がピックアップして紹介する形で質問タイムが進められた。後日、416名からの書き込みに目を通したが、我々の時代とは一味違う積極性や真面目さ、素直さなどの良さを強く感じとることができた。

寄せられた質問や感想の中から一部を紹介したい。

- ① 「経営者の倫理観が正されない限り不正は無くならないが、官規制だけでは力不足である」という言葉が印象的でした。経営者等の自己規律を高めるためにはどのような活動が必要とお考えですか？（2学年）
- ② 会計の実情が良く分かりました。関西電力の一件など、コーポレートガバナンスへの関心が高まっており、そういった点からも会計を詳しく知る必要があると感じました。また、会計業界でも国際化が進んでいると分かり、どのような業界に進んだとしてもより一層グローバルな視点が必要になると改めて感じました（3学年）
- ③ 現在、会計士を目指して勉強していますが、合格して会計士になった後のキャリアに漠然としたイメージしか持てずにいましたが、先生の経験談は非常に参考になりました。資格試験に受かることが最終目的になりつつあったところで、試験に問われない会計プロフェッションとして持つべき視野・思考や能力が多くあることを学びました。
- ④ 今回の講義を聞くまでは会計について興味が無かったのですが、先生の熱意ある講義を聞いて興味が湧いてきました。講義で特に印象に残ったのは、外国人との交流に当たっての「3F+With Fun」の原則です。アルバイト先では沢山の外国人がお客さんとして来られます。その方々と Friendly に接するなど外国の方々と積極的に交流し、自分の視野を広げて世界で活躍できる人材になりたいと思います。（1学年）

学生から寄せられた質問や感想で感じたことは、①相当数の学生が公認会計士や税理士の資格取得を目指していること、②国際的な関係で仕事をしてみたいという学生も多いこと、③会計や簿記に関心なかった学生が今回の講演を機にその必要性を認識したことなどである。グローバルに活躍されている藤沼先生の講演を聞いて、学生諸君が前向きな刺激を受け、動機付けされたことは確かなようである。記念講演を企画した同期会としても嬉しいかぎりであり、改めて、藤沼先生のご来学に厚くお礼申し上げます。

獅子の会幹事

島崎憲明（昭和44年卒）